

方丈記 ゆく川の流れ

一、訂正 報告課題表面 2行目『方丈記』かつこの一つ目が抜けています。

・教科書P 42 L 1〜3までは暗記しておいてほしいです。「国語総合」でも同じ箇所が出題されたので現代語訳まで知っている人がほとんどでしょう。

・教科書P 42 L 4 たましきの：和歌では「都」を導き出す枕詞として使用される例もあります。

・同 L 6 去年（こそ）↑読み要注意！

・同 L 8 朝（あした）↑読み要注意！（意味は「けさ」）

問 「かくのごとし」の内容は何か。学習書P 50下段参照

問 「知らず」はどこを受けているか。 学習書P 51下段参照

・本来の語順と入れ替わる「倒置法」が使われています。

問 「朝顔」と「露」は何の比喻か。 学習書P 51下段参照



ねーねー田村あ〜。
「あす」て「あした」って
何が違うの？
二〇一八年 八月一七日 放送

教科書P 43学習一 本文中から対句的表現を抜き出してみよう。（抜き出せるようになっておきましょう）

学習書P 52下段、P 53上下段参照

※例題※①「棟を並べ」、②「去年焼けて」、③「露落ちて」に対応する表現をそれぞれ抜き出しなさい。

①（ ） ②（ ） ③（ ）

報告課題一、『方丈記』説明文の空欄を埋める問題ですが、三か所の空欄以外にも知っておくべき箇所がたくさんあります。

・『枕草子』、『徒然草』それぞれの作者名、書名の読み、書き取り、時代は書けますか？そもそも「随筆」という漢字が書けますか？

・成立年代：一三二二年

・和歌所寄人として、後鳥羽院（上皇）に仕えた。

・他の著作『無名抄』『発心集』

和歌 万葉集

・教科書P 50 L 1 蒲生野（滋賀県東近江市付近）松坂城主であった蒲生氏郷の出身地。本校校歌にも松坂城のことが

「蒲城」として出てきます。

・同 L 2 標野（校歌にも「境をなせる標もなく」と出てくるので、読めるようになっておこう。）

・同 L 4 にほへる：美しく照り映える。「いろは歌」の「色はにほへど」と同じく視覚に訴える動詞。

・教科書P 51 L 7 罷る：退出する。和歌本文ではどうして宴を途中退出するかの理由が述べられています。

み：「吉野」という地名をほめたたえる接頭語。

L 10 夕かげ：「かげ」は光のこと。「影」と書きます。「shadow」のかげは「陰」と書きます。

・教科書P 52 L 2 背：女性が親しい男性に呼びかける語。↓ 妹

L 3 防人（さきもり）↑読み要注意！

L 4 忘れかねづる：「つる」の部分が「けとばせ」の「ぜ」の部分と係り結びの関係になっているので、

「つ」（完了）の連体形です。

脚注③②あれて↑あれど、けとばせ↑ことばぞ ※共通語で「オ」の音が、関東の方言では「エ」となることが分かります。

報告課題一、八世紀後半成立。（たまたに話題になる四字元号、天平宝字三（759）年）

・大伴家持が最終的な編纂に関わったとされていますが、万葉集の一割近い歌を詠んでいる歌人でもありません。彼の父は大伴旅人。元号の「令和」の元となった「梅花の宴」を催した人物です。

歌体によるリズムの違い

・長歌：(5・7)×n+7

・旋頭歌：5・7・7、5・7・7

・仏足石歌体歌：短歌+7

・歌数：『国歌大観』によると正しくは二十巻で四千五百十六首あります。

・君が袖振る：額田王の魂を大海人皇子が呼び寄せる行為。「招魂」と言います。「君」は大海人皇子のことです。



ねーねー畠村あ〜。
「いってらっしやーい」「いってお別れするじぎ、
手を振るのほなげっ」

二〇一七年 三月二四日 放送

和歌 古今和歌集 新古今和歌集

- ・「仮名序」⇄「真名序」 紀淑望（漢文による序文。内容は仮名序とほぼ同様）
- ・教科書 P 53 L 1 よろづの言の葉：「よろづ（万）」の言の葉。『万葉集』に通じる表現と言えます。
- ・教科書 P 55 古今和歌集は**最初**の勅撰和歌集。二十卷。**醍醐天皇**の勅命による。
（撰者）紀貫之、紀友則、凡河内躬恒、壬生忠岑
- ・ P 57 新古今和歌集は**八番目**の勅撰和歌集。二十卷。**後鳥羽院**の**院宣**による。
（撰者）源通具、藤原有家、藤原定家、藤原家隆、藤原雅経、寂蓮

※国語総合の復習※（そのまま抜粋）

最初があつて、八番目がある、ということは……二番目から七番目の勅撰和歌集は何だろう???

（…と考えられる人は、とても優秀!）

二・**後撰和歌集**↓三・**拾遺和歌集**↓四・**後拾遺和歌集**↓五・**金葉和歌集**↓六・**詞花和歌集**↓七・**千載和歌集**

★あわせて「八代集」と呼びます。

・ P 56 L 7 式子内親王（現代仮名遣いでふりがなを付けられますか?）

・ L 8 弱りもぞする…も十ぞ、または、も十こそがあると、心配や不安、不快などの感情を表します。
ここでは「弱ったら心配だ」「弱ったら嫌だなあ」などと訳します。

（例文）人もこそ知れ||「人に知られたらヤバイ!」

雨もぞ降る||「雨が降ったら嫌だな」

袖の濡れもこそすれ||「袖が濡れたら嫌だ」（泣いていたことが知られてしまうから）